

2015年新春特別インタビュー

財団法人三井文庫設立50周年▶由井常彦文庫長

三井記念美術館開館10周年▶清水眞澄館長



日本屈指の三井の経営史料

今年、三井グループ各社が支援する公益財団法人三井文庫が財団設立50周年、三井記念美術館が開館10周年を迎える。江戸時代から続く三井の経営史料や三井家が収集した美術品などの収集・保存・公開・展示・研究活動を長年にわたり続けてきた。三五〇年にも及ぶ三井の歴史と文化は現在のグループに何を物語るのか。新春インタビューとして、三井文庫・由井常彦文庫長と三井記念美術館・清水眞澄館長に話を聞いた。

三井文庫の前身である「三井家編纂室」が設立されたのは今から一〇〇年余り前の明治中期。由井文庫長は当時、三井には江戸時代から続く膨大な経営史料をまとめる専門の編纂室が必要であったと指摘する。

由井 「三井の歴史で驚くべきことの一つは経営史料の保存量の多さ。当財団の史料は一七世紀半ば以降の三井家事業に関する古文書、古記録類や明治以降の三井系企業の経営史料を含め、総数は約一〇万点にのぼる。

ともいえる三井合名会社設立(一九〇九年)に先立ち、三井家編纂室を設置(一九〇三年)している。これは、三井の歴史と情報に対する意識の高さを物語っている。

史料的な研究が進む三井文庫ではこれまで数々の刊行物を発行。経営史研究における業績は日経経営史会議でも取り上げられるなど、世界的にも高い評価を得ている。

由井 「財団法人設立後の実績の一つは『三井事業史』(全一〇冊)を刊行したこと。その完結(二〇〇一年)は、就任最初の大事な仕事であった。史料、文化財の保管、調査および公開の業務のほか、当財団の研究成果の発表として『三井文庫論』『三井美術文化史論』

三井の拠点である日本橋に三井グループによる私立美術館があることはグループの認知度やイメージ向上にも繋がる。今年は一連の記念特別展を開催する。そのうち「日本屈指の経営史料が語る 三井三五〇年の歴史」(五月一日〜六月一日)では初公開も含め、当財団が所蔵する経営史料を初めて大規模に展示するのは是非、グループの方にもご覧いただきたい。

近年の公益法人制度改革では、公益財団法人に認定。三井文庫の各事業は三井の枠を超え、公益性の高い社会貢献活動としても認められている。

由井 「当財団は平成二三年、内閣府から『公益財団法人』に認定され、新たな歩みを始めた。類々の機関の中では、いち早く認定を受けることができた。経済史・経営史分野と文化史・美術館分野での長年の公益性の高い社会貢献事業としての活動実績が認められたわけ、喜ばしい。

展示を通じ、公益性も担う三井記念美術館。清水館長は美術館の使命に「見える部分と見えない部分がある」と指摘する。

清水 「美術館の使命は大きく二つある。一つは美術品の展示・教育・サービスなどであり、直接社会と接している。外から見えない部分であり、もう一つは保存・研究など外からは見えない部分。美術館は数値で表せない、この見えない部分が重要である。多くの方々に鑑賞頂くとともに、所蔵品を安全に管理し、後世に伝える役割を担う。三井家に伝わる品々は、どれも保存状態がとて良く、三井家の

街並みから一歩足を踏み込めば、東洋美術が味わえる。この意味は大きい。日本には、訪日した観光客が必ず訪れたくなるような海外の例えればブルー美術館やメトロポリタン美術館に匹敵する美術館がない。大げさに言え、日本を代表するような美術館にする意気込みで臨んだ。

もあつたが、「三年であきらめてしまふ」と考え、二年目からは他の美術館などから名品を借用して行う「特別展」も始めた。現在は通年で五〜六展覧会を実施しており、このうち二〜三本を「特別展」としている。

開館から昨年まで、五〇周年、当館開館一〇周年を記念し、春・秋に記念特別展を開催、春は前期に分けて前期は三井家の茶道具を、後期は三井文庫が所蔵する経営史料などを展示する。経営史料の展示は当館としては初の試みで、美術品とは別の意味がある。三井家、三井財閥、そして三井グループに至る歴史を知ってもらいたい。三井グループを対象とした割引優待も行う。

秋はかつて三井家が所蔵し、現在その手を離れている美術品も集めた名品展を開催するので、こちらも是非ご覧いただきたい。今後三井各社の支援に心懸けることで、展覧会の質を落とさず、一度は減少した来館者数を呼び戻したことはとても喜ばしい。

三井の歴史と文化を後世へ

美術館は入館者数を重視するが、展覧会は質も重要。昨秋開催した足利将軍家のコレクションを集めた「東山御物の美」は爆発的に入館者が増えたわけではないが、この先数年間はどの美術館でもできないであろう特別展。専門家や海外からの来館者も多く、天皇皇后両陛下の行幸啓も賜った。

展覧会の質を落とさず、一度は減少した来館者数を呼び戻したことはとても喜ばしい。今年「記念特別展」に誇れる運営を目指す。

由井 常彦氏略歴 東京大学大学院社会科学研究所経済史学博士課程修了。専攻は日本経営史・経済史。明治大学名誉教授、文部省大学設置審議会専門委員、日本学術会議委員、日本経営史研究所理事長などを歴任。一九九九年三井文庫理事館長、二〇〇一年同常務理事館長、二〇〇五年同常務理事・文庫長に就任し、現在に至る。

これからの三井グループ各社の支援の下、史料の調査・収集・保存・公開・研究といった地道な活動を続け、長年にわたって受け継がれてきた三井の歴史と文化を内外に広めていきたい。



清水 眞澄氏略歴 東北大学文学部史学科東洋芸術史卒。専門は仏像美術史。成城大学学長、文化庁文化審議会専門委員、独立行政法人国立美術館・博物館評価委員会などを歴任。三井記念美術館の開館に伴い初代館長に就任、現在に至る。